

常磐線復旧工事の動き



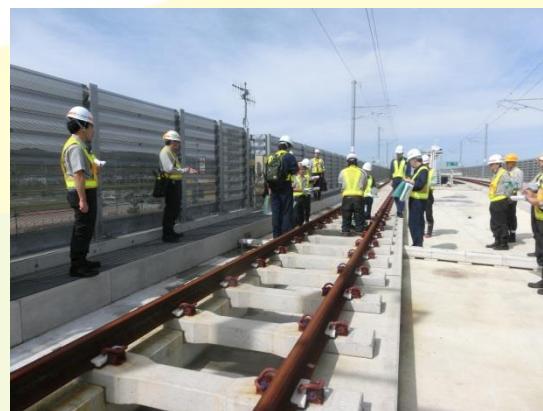
①新地町レールウォーク開催！

10月2日、新地町が開催したレールウォークinしんにちに参加しました。
コースは作田から新しくなった新地駅までの片道約600mの線路上です。運転再開後は立ち入ることができないため、高架橋から見える景色を楽しみながら、参加者と一緒に「今」しかできないウォーキングを楽しむことができました。
参加者の皆様の率直な意見を聞きながら線路上を歩くことで、社員としても新たな気づきを得ることができました。主催の新地町、参加者の皆様に感謝申し上げます。



②鉄道電気施設の検査を実施

常磐線復旧工事において、移設区間は宮城県側を含めると、約14.6kmと長大な線路移設工事です。6月中旬に土木施設が各種鉄道基準に適合していることを検査にて確認し、今回、電気施設の検査を9月下旬に実施しました。
検査結果については、土木施設・電気施設あわせて、無事合格となりました。
今後は11月からの訓練運転、12月10日の運転再開に向けて、引き続き関係箇所と調整を行いながら、万全の体制で準備を進めたいと思います。



③鉄道沿線の電気が流れ始めました！

常磐線の運転再開に向けて、相馬から亘理までの電気の加圧が10月から開始されました。
6月から信号高圧配電線や、トロリー線などの線路の運転に係る電力を供給するための架空線や埋設ケーブルへの加圧を断続的に実施してきましたが、10月からは常時加圧となります。具体的には10月11日から信号高圧配電線が、10月24日からトロリー線が常時加圧となります。
写真は小川踏切箇所の信号高圧配電線とトロリー線それぞれの写真です。トロリー線までは、踏切舗装面から約5mの高さがあります。

